



日本女子大学

RI*WAC
Research Institute for Women and Careers

日本女子大学 現代女性キャリア研究所 主催

2024年度 シンポジウム

非婚・ 少子社会への視座

— 若者の意識・家族政策の変化と少子化の現状 —

2024年

12/14(土) 10:30 - 13:05
(10:00 開場)

於 日本女子大学 (目白キャンパス)
新泉山館 大会議室 (1F)
ZOOMウェビナー同時開催

参加費
無料

事前予約必須

申し込み方法

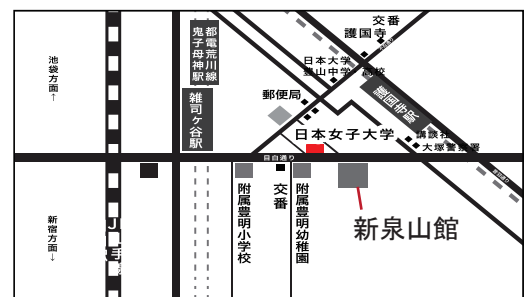
QRコード (Forms)にてお申込みください (12/9メ切)
<https://forms.office.com/r/iN5qm35aP7>

※ メール (riwac@fc.jwu.ac.jp) の場合、
件名「シンポジウム申し込み」氏名・連絡先を明記



<アクセス>

JR山手線 目白駅 (バス5分・徒歩18分)
副都心線 雑司が谷駅 (徒歩8分)
有楽町線 護国寺駅 (徒歩10分)



<主催・お問い合わせ先>

日本女子大学現代女性キャリア研究所 E-mail riwac@fc.jwu.ac.jp

非婚・少子社会への視座

— 若者の意識・家族政策の変化と少子化の現状 —

プログラム

10:30 ~ 10:35 開会の挨拶

10:35 ~ 10:50 趣旨説明 永井 暁子 (日本女子大学現代女性キャリア研究所 所長)

第一部 講演

10:50 ~ 11:20 日韓における少子化の現状と対策の比較：なぜ日本の出生率は韓国を上回っているのか
金 明中 (ニッセイ基礎研究所上席研究員)

11:20 ~ 11:50 児童福祉政策における「親責任」「家庭」の強調とその影響
林 浩康 (日本女子大学人間社会学部教授)

11:50 ~ 12:20 若者の結婚観・恋愛観の変容：「愛情」と「合理性」との狭間で
千田 有紀 (武蔵大学社会学部教授)

12:20 ~ 12:30 <休憩：10 分間>

第二部 全体討論

12:30 ~ 13:00 全体討論

13:00 ~ 13:05 閉会の挨拶

登壇者プロフィール



金 明中

ニッセイ基礎研究所上席研究員・亜細亜大学特任准教授。日本女子大学現代女性キャリア研究所特任研究員、日本女子大学等非常勤講師。専門分野は労働経済学、社会保障論、日韓社会政策比較分析。著書に『韓国における社会政策のあり方II——韓国における少子化、格差、葛藤の現状』（社会評論社）等。最新論文に「韓国における最低賃金の引き上げをめぐる議論と課題」『日本労働研究雑誌』2024年10月号 (No.771)、「在職高齢年金の緩和・廃止と就業行動の変化」『社会保障研究』第9巻第2号（2024年10月刊）。東洋経済日報、韓国の明日（ネ・イル）新聞のコラム等を執筆中。



林 浩康

大阪府生まれ。北星学園大学助教授、東洋大学教授などを経て、現在、日本女子大学人間社会学部教授。専門分野は児童福祉、特に社会的養護施策や実践論に関心があります。著書に『里親と特別養子縁組』（中公新書）、『児童養護施策の動向と自立支援・家族支援』（中央法規出版）、『子ども虐待時代の新たな家族支援』（明石書店）、『子どもと福祉』（福村出版）など。



千田 有紀

武蔵大学社会学部教授。専門は、家族社会学、ジェンダーの社会学、教育社会学、現代社会学など。著書に『日本型近代家族 どこから来てどこへ行くのか』（勁草書房）、『女性学/男性学』（岩波書店）など。編著に『グローバリゼーションと変わりゆく社会』（北樹出版）、『上野千鶴子に挑む』（勁草書房）、共著に『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣）などがある。



永井 暁子

公益財団法人家計経済研究所次席研究員、東京大学社会科学研究所助教授を経て、日本女子大学人間社会学部教授、現代女性キャリア研究所所長。佐藤博樹・永井暁子・三輪哲編『結婚の壁』（勁草書房）、「家事と仕事をめぐる夫婦の関係」『日本労働研究雑誌』No.719,(2020年)など。